

こ ども の 城

こどもの城 活動事例集

手作り楽器と  
リズム遊び

こどもの城



## 耳をひらけば豊かになる日常の生活と心

～こどもの城音楽事業部の活動概要～

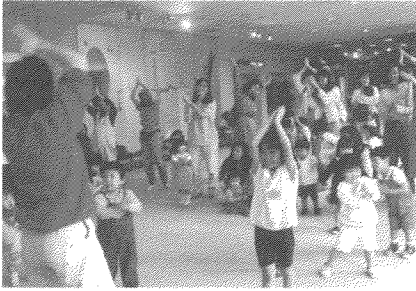
### 豊かな日常生活のために

注意して静かに自然の中の音を聴くという機会が少なくなってしまったのは、とても残念なことです。私たちの祖先は、“鹿おどし”のように音の響きの後の空の韻さえ、音として感じたり、手水鉢から落ちる手洗いの水滴をかめの中で響かせる“水琴窟”という装置さえ発明しています。生活の中の音に対して敏感であったのです。

今では、世界中の有数の歌手の歌、オペラ、オーケストラの演奏を、贅沢にも、日本にいながらにして聴くことができます。一流の音楽家の音楽を聴いても、一方では騒音だらけの環境の中に埋没し、自然の音などには耳も傾げず、日々の生活を送っているのも事実です。

これは、学校や社会における教育の問題だけではありません。騒音をなくし、精神的に豊かで、静かな美しい環境で日常生活を送りたいと願うならば、それを実現できるように、一人ひとりが社会に対して方向づけようと努力することが必要なのです。

こどもの城の音楽事業部は、音楽の天才を育成したり、音楽を特別に学びたいという子どものための活動の場ではありません。自由に来館する子どもや、講座・クラブに通う子ども一人ひとりの個性や感受性を大切にしながら、日常生活の中で彼らの情操を豊かにする支援をするのが、音楽事業部の役割です。このことが、「音楽」というものを通じて行う「児童の心身の健全育成」ということだと考えています。

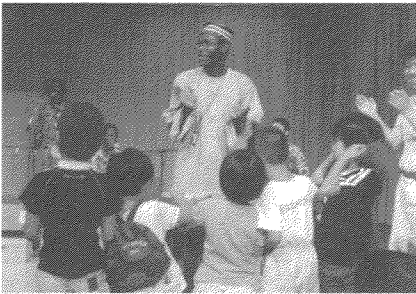


### 音楽を通じてのコミュニケーション

楽器を上手に奏でるようになるためには、ある程度の練習量が必要となりますが、すべての子どもが、そのような機会に恵まれるとは限りません。しかし、楽器などの練習をしなくても、音楽を通じて感性を養うことは十分に可能です。

感性とは「感じる心」。「花を見たり、きれいな音を聴いて美しいと感じる」ということなどに加えて、「他の人の気持ちを感じる力」、「人と同じ気持ちで感じる力」でもあります。それは、「共感する心」そして「思いやりの心」をはぐくむということにもつながってきます。いわば、社会性を培うためにも、感性はなくてはならない要素の一つでもあります。

私たちは美しい音や音楽を通じて、子どもたちの感性を養うとともに、音楽を通した人と人とのかかわり、他の人と同じ時間の中で共感しあう喜びを、プログラムのテーマにしています。つまり私たちは、グループで音楽をすることの楽しさと、音楽を通したコミュニケーションの喜びを、子どもたちとの音楽遊びの中でどう伝えられるかを常に考え、プログラム作りをしているのです。



### 手作り楽器で音楽の原体験

子どもたちの音楽活動では、楽器は重要な位置を占めています。ピアノやギターやドラムセット、私たちの身の回りにはたくさんの楽器があります。しかし、これらの楽器がなければ、まったく音楽を楽しめなくなってしまうというのでは、音楽が身近にある豊かな日常生活からは遠のいてしまいます。そのために、こどもの城では、身近な素材を使った「手作り楽器」のプログラムに積極的に取り組んでいます。

「手作り楽器」には、既存の楽器にない、いくつかの魅力があります。第1に、「制作する一音を出す一演奏（合奏）する」といった活動の幅の広さは、今まで以上の多くの人々に、音楽の楽しさを感じてもらおう可能性を秘めています。そして、「ド・レ・ミ・ファ・ソ」（西洋音楽）などの一定のルールにしばられることなく、広く自由に音楽と接することができるために、子どもたちでも、手軽に遊び感覚で楽しむことができるのです。

第2に、「手作り楽器」には、「音楽を楽しむ」といった行為の原点がたくさんあります。その昔は、「楽器を作る人」と「演奏する人」は区別されておらず、1人の人間が行っていました。そして、長い歴史の中で、制作、演奏を繰り返し、さまざまな楽器や音、そして音楽が生み出されてきました。「手作り楽器」の世界には、そんな人間

こどもの城活動事例集 No.1

「手作り楽器とリズム遊び」

発行 こどもの城  
編集 音楽事業部  
 動くこどもの城事務局  
住所 東京都渋谷区神宮前5-53-1  
イラスト 喜久山 悟  
印刷製本 有限会社 博英社  
発行日 平成14年11月1日（第2版）

と音楽のかかわりの原点が、現在も残っています。「この素材をこんなふうにする、どんな音が出るのかなあ」と想像し、工夫や改良を重ねることができ、音楽にとても大切な創造性を刺激することができるのです。

現在では、「手作り楽器」自体が、1つの独立した音楽のジャンルを形成してきています。しかし、それと同時に、既存の音楽への導入的な役割を果たすことができると考えています。また、「手作り楽器」には、独奏楽器のように一人で楽しむものが比較的多いのですが、プログラムを工夫することで、多人数でのアンサンブルを楽しむこともできるのです。

このように、「手作り楽器」は、音楽遊びのプログラムとしての大きな可能性を秘めています。特に、「活動の幅の広さ」については、日頃さまざまな声を耳にします。「演奏することがあまり好きではなかったけれど、楽器を作ってみることで音楽が好きになった」などと聞くと、大変うれしく思います。

「手作り楽器」の中には、既存の楽器を模倣し制作する、といったオリジナルの代替的発想がベースになっているものも少なくありません。そして、その多くは、音が貧弱であったり、見栄えが悪かったりします。しかし、これは致し方ないことといえるでしょう。既存の楽器は長年にわたる多くの人々の英知の結晶であり、それを乗り越えることなど簡単にできるわけではないのですから。

ここで紹介するフィルムケースを使った手作り楽器は、既存の楽器の形だけの模倣といった考えはなく、「この仕組みで音を出したい」、「こんな音を作りたい」といった発想をもとに創作・制作した楽器です。「普段の生活の中からの自由な発想」を心掛け、フィルムケースと寝食をとともにするように、いつもフィルムケースを持ち歩き、何か思い浮かぶごとに、試作を繰り返して、生まれてきたものばかりです。そして、それを実際に子どもたちに何度も作ってもらい、作り方の手順や、音の出る仕組みが適しているかどうかを探ってきました。しかし、このプログラムも、まだまだ発展途上であり、これを今まで以上の多くの子どもたちに体験してもらう中で、更に新しい発想が生まれてくることを期待しています。

### 誰でも気軽に楽しめるリズム遊び

音楽を構成している3つの要素にリズム、メロディー、ハーモニーがあります。こどもの城では、手作り楽器のプログラムのほかに、この中の「リズム」を中心とした音楽遊びのプログラムを多く展開しています。

リズムは、音楽の3要素の中でも最も基本的なものです。音程を伴わないことにより、グループでの即興的なアンサンブルを行うことも容易にでき、そのバリエーションも限りなくあります。また、弦楽器や管楽器などは、まず音を出すだけでも、ある程度の訓練を必要としますが、打楽器はそれこそ叩くだけで音が出ますから、幼児でもすぐに演奏に参加することができます。そして、素材や大きさにより、いろいろな音色を選択することができるので、楽器以外の物を使っても演奏ができ、音色選びも「遊び」として広がります。すなわち、リズム遊びの楽しさは、「誰でもすぐに演奏に参加できること」、「少ない人数でも、どんなに大勢でもグループとして一体感を持って遊べること」、「幼児でも手軽に参加できるので、幅広い異年齢の子どもたちが同時に遊ぶことも可能なこと」、「即興的な要素を取り入れやすいので、より自由な感覚で「遊び」を展開できること」などがあげられます。

私たちはリズム遊びのプログラムを作るうえで、民族音楽の要素を取り入れることにしました。世界にはいろいろな音楽があり、リズムの形態もさまざまです。その中でも注目したのは、ブラジルのサンバと、西アフリカのタムタムでした。ここで紹介するプログラムも、この2つの音楽を音楽遊びとしてアレンジしたものです。基本的には打楽器だけの演奏形態であり、思わず踊りだしたくなるような軽快でエネルギッシュなビートを持ち、グループでアンサンブルをするという、2つの音楽の共通している特徴が、子どものリズム遊びに応用するのに適していると考えたのです。





(参考資料) フィルムケース材質・形状

コダック	キャップの表面が平らで、 全体に柔質
コニカ	全体に柔質
フジフィルム	キャップの密閉度が高く、 全体に硬質

(主な3社の簡単な比較/1999年7月現在)

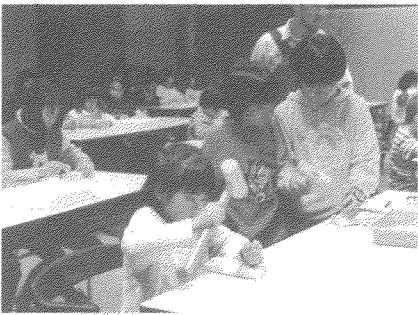
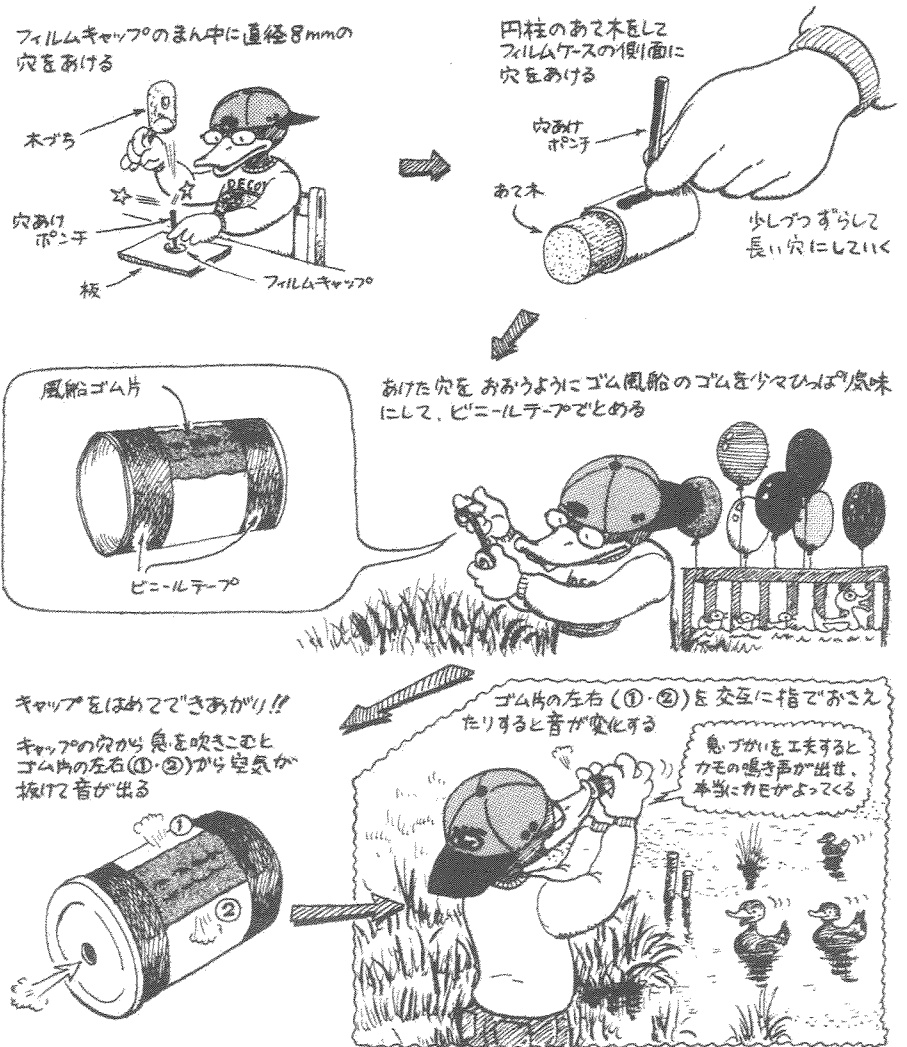
## 1. 手作り楽器 フィルムケースの笛

手作り楽器の素材としては、生活廃材など身の回りにあるもの、安価で購入できるものなどが、まず考えられます。そんな中で、私たちが手作り楽器の素材として「フィルムケース」にこだわりを持っているのは、楽器を作るためにはかなりユニークな素材だからです。

この楽器は、身の回りにたくさんある廃材のリサイクル品でもあります。素材は、カメラ店に頼んでおけば無料でもらうこともできますから、数の心配もいりません。プラスチックでできているため、加工することが容易で、壊れにくく寿命も長いという特長があります。簡単に洗うこともできますから、清潔で、見栄えがよいものができるはずです。加えて、メーカーによる材質や形状の若干の差異はあるものの、すべて均一の規格品ですから、誰が制作してもある程度、一定の質に仕上げることができます。そして、筒状でふたの密閉度が高いため、笛を制作するには最適と、いいことづくしです。更に、抽象的な美しいフォルムは、作者の創造性いかんで無限の可能性を秘めています。このような素材を放って置くわけにはいきません。

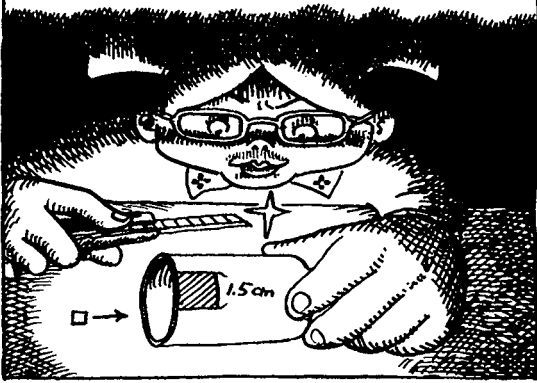
蛇足ですが、フィルムケースはメーカーごとの材質・形状・色彩が異なっており、制作する楽器ごとに適したメーカーが必ずあることを付け加えておきます。それらを把握することは、質の高い楽器が作れるということだけではなく、今後みなさんが新作を誕生させるのに、ひいてはフィルムケースの楽器で、日々の生活をより楽しむことに、大いに役立つことでしょう。

# カモを呼ぶ笛

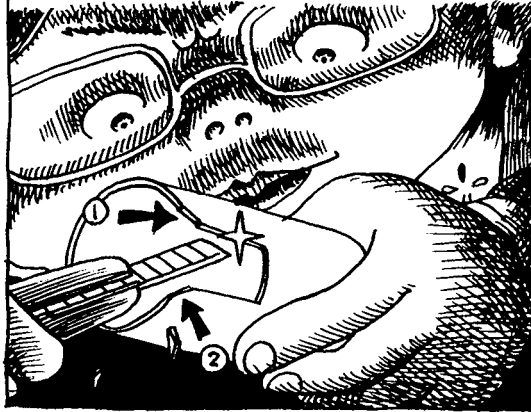


# カット笛

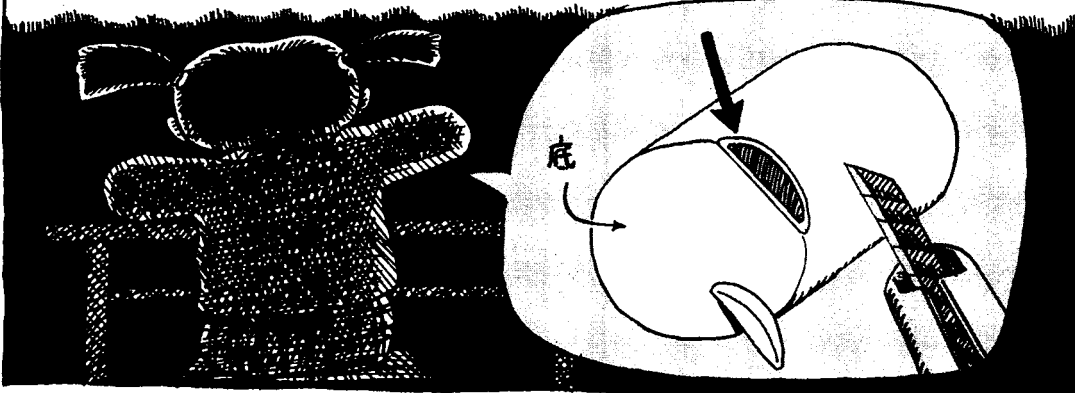
① キヤップをはずしたフィルムケースをハサミやカッターを使って図の斜線部分を切り落とす



② ①の切り口の角を落とす (2ヶ所)



③ ①の切り口の反対側にある底のカーブをカッターで切り落とす



④ 下くちびるの下にフィルムケースをあてて、やさしく吹く



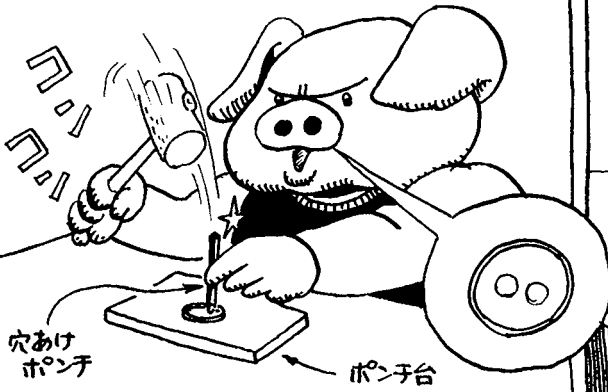
底の切りおとした所を指でおさえて少しずつずらすと音が変わる

④注 「カット笛」は絵のようなおそろしげなものではなく楽しい楽器です

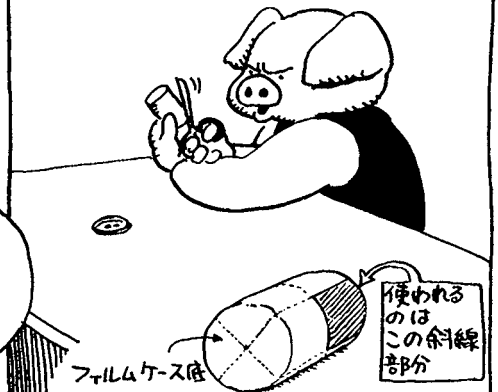
S.K

# ブタ鼻笛

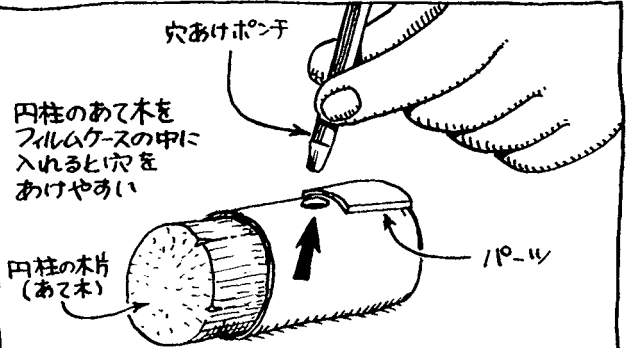
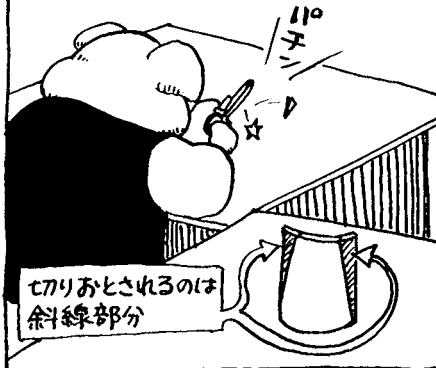
① 穴あけポンチ（直径7mm程度）で、フィルムケースのキャップに2つの穴をあける



② フィルムケースの側面を4等分に切り、さらにそれを半分に切る



③ 切り取ったパーツはほぼ台形になるように上部のカットを斜めに切り落とす

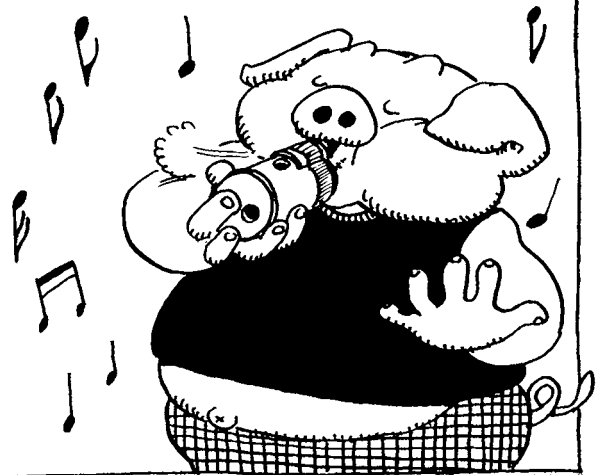


④ ③でできあがったパーツを図のように、別のフィルムケースの底に沿ってあてがい、パーツがとぎれる先に穴をあける

⑤ ①で穴をあけたキャップをフィルムケースにかぶせ、あてがったパーツは、ビニールテープを巻いてとめる

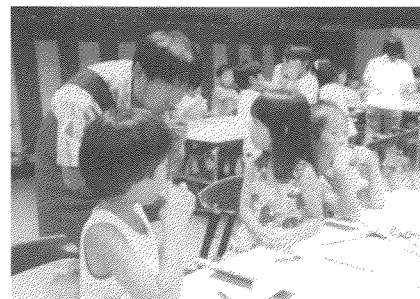
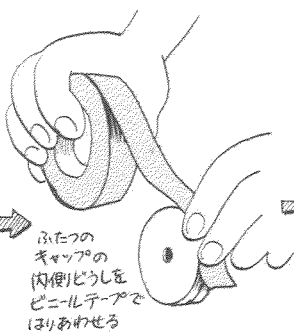
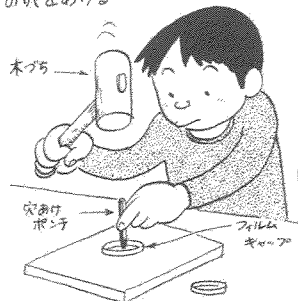


⑥ パーツの後ろに口をつけるようにして息を吹き込み、キャップの2つの穴を指でふさいだり、離したりして笛を吹く



# ひゅーひゅー笛

ふたつのフィルムギャップのまん中に直径8mmの穴をあける



## 2. 手作り楽器 手作りのタムタム

こどもの城では試行錯誤を繰り返して、さまざまな手作り太鼓を作ってきました。音色や耐久性の問題と常につつかり、改良を加え、次々とその姿を変えてきました。ここで紹介するのは、オイル缶を使ったものですが、長い間使っていると縁がへこんできて形が変形し、そこから皮が破れやすくなるという問題があります。しかし、そんなに使用頻度が高くなければ、ある程度の耐久性があり、なかなか良い音がします。

現在、こどもの城で活躍している手作り太鼓は、アクリル絵の具が入っていた丈夫なプラスチック製のバケツを胴にし、ドラムセットに使う「ヘッド」という薄いプラスチックの皮を使っています。音色は今一つですが、耐久性には優れています。素材によって音色、音量、耐久性が異なりますから、いろいろと工夫してみてください。

### 〈材 料〉

カン (直径30cm位のオイル缶など)・キャンバス地 (カンの底よりやや大きめ) 2枚

ハトメ 24~32個・たこ糸 (太さ2~4mm)

丸棒の小片 (直径1~1.5cmの丸棒を長さ4~5cmに切ったもの) 12~16個

### 〈道 具〉

はさみ、ハトメパンチ、メヌキ、マーカー、ものさし、のこぎり

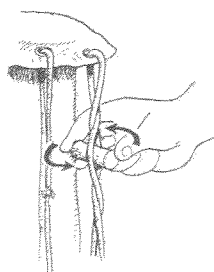
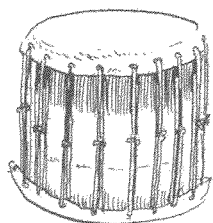
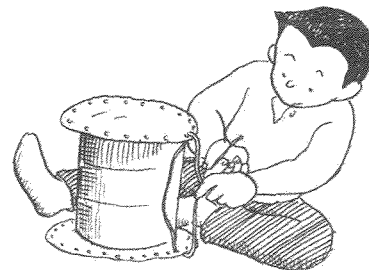
### 〈手 順〉



②ハトメの部分は破れやすいので、はじを二重に折り込んで、穴をあけてハトメでとめます。穴はカンの円周に沿って12~16個、均等にあけます。



③穴のあいたキャンバス地をカンの上下にかぶせ上下の穴1組につき1本ずつ通したたこ糸でしばります。(直径2~4mmのもので、ハトメの穴に合う太さであることに注意してください)ほどけないように、かたむすびでOK。





### 3. リズム遊び「タムタム大王と遊ぼう」

こどもの城で人気の高いプログラムの1つです。スタッフが太鼓の王様「タムタム大王」に扮し、子どもたちは、王様の国である「タムタム王国」に太鼓を習いにきたという設定で、リズム遊びを楽しみます。このプログラムは、アフリカの西部に位置するセネガルのドゥードゥンジャエローズという人が、タムタムという太鼓を使ったオーケストラを組んで活躍したのをヒントに、考え出されたプログラムです。

このプログラムの特徴は、譜面などは一切使用せずに、大王役のリーダーが言葉でリズムを解説しながら、即興的に遊びをリードしていくことです。そして、シンプルでありながら特徴的な躍動感を持つアフリカンビートを、「下うち」と呼ばれる伴奏として取り入れているところです。こどもの城では、子どもたちがのびのびと元気よく太鼓を叩くことができるように、前述の身近な廃材などを利用した手作りの太鼓を使ってプログラムを実施しています。

また、このプログラムの応用編として、リズムを日本のリズムに置き換えた、「太鼓道場」というプログラムもあります。この場合「下うち」は伝統的な「お囃子」の基本的なパターン、「カッカ、カッカ、カッカ…」という3連符系でハネる感じのリズムを取り入れています。



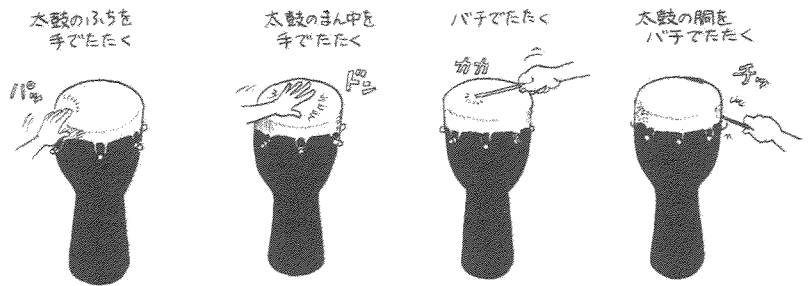
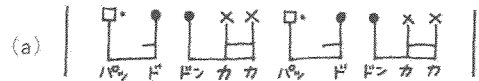
#### アフリカの太鼓「タマ」

横に張ってあるヒモを調節してさまざまな音を出すことができます。日本の伝統的な鼓の原理と同じです。



#### 基本的なリズム

タムタム



上のイラストのように、バチは1本だけ持ち、①手で皮の縁を叩く、②手で皮の真ん中を叩く、③バチで皮を叩く、④バチで太鼓の胴を叩くという4種類の音を使い分けて、リズムを叩きます。

プログラムを進めるためのコツは、まず、子どもたちとの会話についても、リズムを感じながら進めることです。言い換えれば、言葉にもリズムを持たせるということです。そのためにはリーダーは常に身体全体でリズムを感じ、そして何よりも自分が、まずそのリズムによって、誰よりも楽しく遊ぶことが大切です。即興的な展開により、遊びがどんどん広がることを楽しんでください。

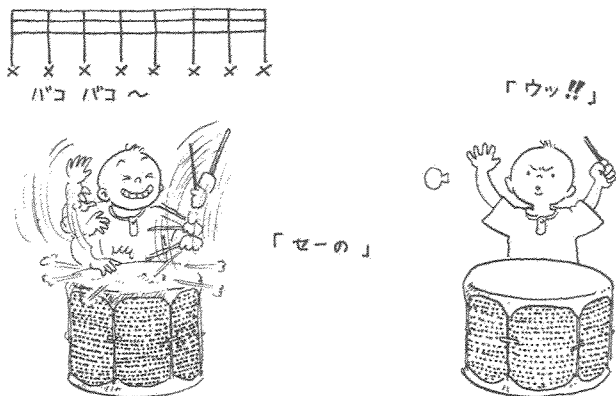




「タムタム大王と遊ぼう」のリズム例

①バコバコ

リズムとは言えません。子どもたちの積極性を引き出すためにも、この遊びのルールを理解するうえでも、遊びの最初にする効果的です。大王の「バコバコ〜」という合図で子どもたちは一斉に太鼓を勢よく叩き、「セーの」の合図で、「ウツ!!」っと声を出しながら太鼓を叩くのをやめます。



②数打ち

大王の言った数だけ太鼓を叩きます。「タムタム」の基本のリズムの (a) を伴奏に使うと、ますます楽しくなります。大王は、リズムによって数を言うことがとても大切になります。

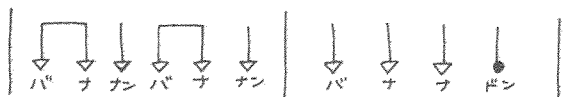
「いっかい!」 ドン、「に・かい!」 ドン・ドン

③リンゴのリズム

大王のことばのリズムに合わせて太鼓を叩きます。



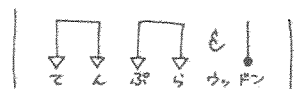
④バナナのリズム



⑤しまうまのリズム

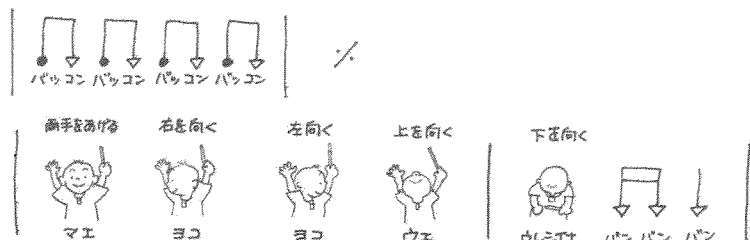


⑥てんぷらうどんのリズム



⑦ウレシイウレシイリズム

子どもたちに人気のリズムと振り付けです。



アフリカの太鼓「ジェンベ」

## 4.リズム遊び「サンバのリズム」



サンバは「リオのカーニバル」でも有名なブラジルの代表的な音楽の一つ

それでは主な楽器をご紹介します

### サンバ (SAMBA)

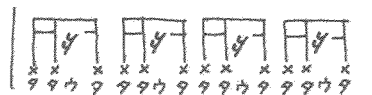
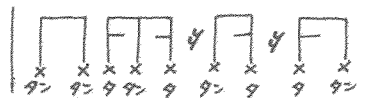
「リオのカーニバル」などでよく知られている、ブラジルの代表的な音楽の一つです。この音楽は、数種類の打楽器によってリズムをつくっていきます。一見難しそうですが、ブラジルでは、誰もが、お皿をナイフでこすったり、マッチ箱を叩いたりして手軽に楽しんでいます。

サンバはご存じの方も多いと思いますが、思わず踊りだしたくなるようなエネルギッシュなリズムで、音色的にも派手で賑やかな音楽です。次に紹介するのは一般的な楽器の演奏方法ですが、こどもの城でのプログラムでは、アフリカタムタムの時と同じようにサンバのリズムを伴奏として使い、それによって即興的にさまざまなシンプルなリズムを組み合わせるという形で進んでいます。主に伴奏楽器はスルドとガンザ。それに、子どもはタンボリンを持ってリズムを叩くという形です。またはスルドとタンボリンやアゴゴを伴奏として、ガンザを持って踊るダンスプログラムを展開することもあります。

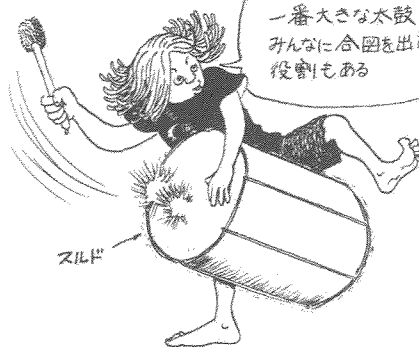
### タンボリン

お馴染みのタンバリンと、少し似ている楽器。タンバリンを小型にしたような形で、周りには鈴がついていません。

### 基本的なリズム



タンバリンとは  
ちかちか  
パチパチ



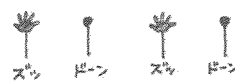
サンバの楽器の中では一番大きな太鼓  
みんなに合図を出す役割もある

### 基本的なリズム

手でたたく 手でたたく



難しそうだけど基本は...



### 基本的なリズム

低いベル 高いベル ぼさむ音

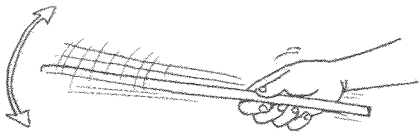


大きさのちがうベルを  
パチでたたいたり  
ベルどうしをぶつけて  
音を出す

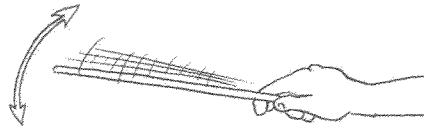


### バチの持ち方

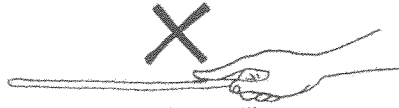
バチは下の図の2つの持ち方のうち、自分の持ちやすい方でかまいません。できるだけ柔らかく持つ方が、速いリズムを叩くことができます。



・バチの持ち方(その1)  
親指を上に向ける



・バチの持ち方(その2)  
手の甲を上に向ける



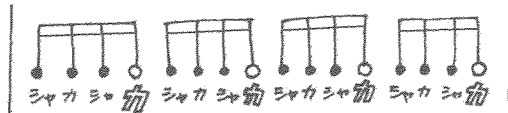
ひびさし指をさえるのはあまりよくない

### ガンザ

空き缶の中に、豆やお米を入れた楽器。簡単にできる手作り楽器。



### 基本的なリズム

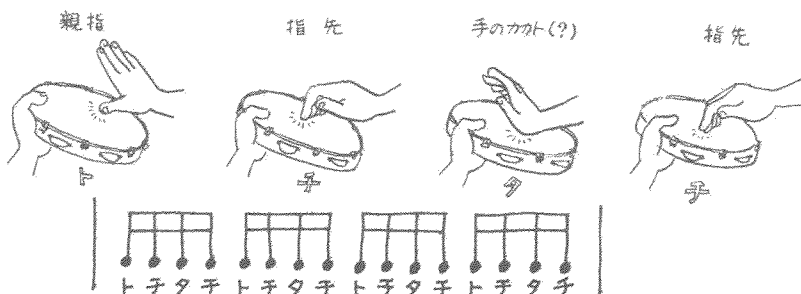


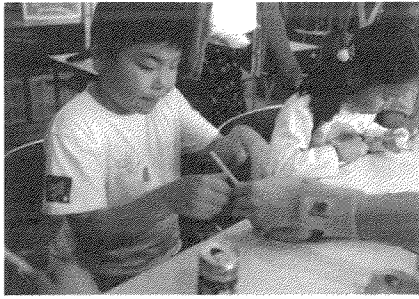
### クイーカ

太鼓の皮の中心に竹ひごのような棒をつけ、それを濡らした布でこすって音を出します。皮を指で押さえ、その力加減で音程を変えます。サンバではこれらの楽器のほかにも、ヘコヘコ、ヘビニキ、ホイッスルなどの楽器が使われます。

### パンデイロ

サンバで使われる皮つきのタンバリン。指先や手のあらゆる部分を使ってリズムを叩き出します。



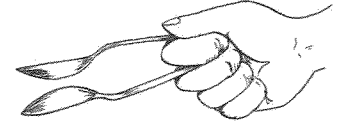


## 5. リズム遊び 「スプーン・カスタネットに挑戦」

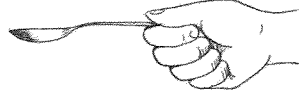
「身の周りものを楽器として演奏してしまう」、これはなかなか楽しいものです。例えば茶碗や空き缶を叩いたり、洗濯板をこすったりしてもすぐに演奏できますが、ここで紹介するスプーンは、叩き方で音色が変化したり、難しいリズムが演奏できたりと、なかなか奥が深い楽器となります。そして、ポケットなどにも入り、いつでもどこでも持って行けて、手軽に演奏できます。キャンプの時など、歌に合わせて叩いたりするのも良いでしょう。スプーンの形と手のひらの形や大きさのマッチングにより、音が出にくい場合もありますが、コツさえつかんでしまえば、誰にでも簡単に演奏できる、おもしろ楽器です。

### 【持ち方】

カレー用のスプーンを片手に2本、おしりをあわせる形で持ちます。手の形は「グー」で、ギュッとにぎります。上の方のスプーンは親指と人差し指の間にはさみます。

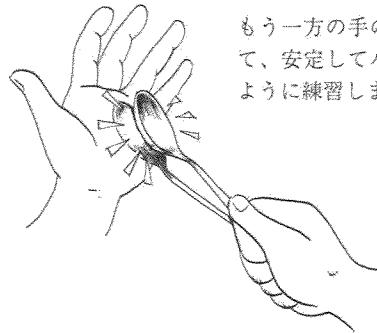


下の方のスプーンは人差し指と中指の間か、中指と薬指の間にはさみます。どちらかやりやすいほうを選びます。

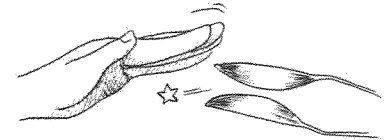


### 【ポイント】

持ったとき、両方のスプーンの間が1cmぐらいあくようにして、グラグラ動かないように力を入れます。スプーンの柄の先が手のひらに刺さっているように持つのもポイントです。

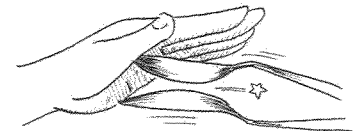


もう一方の手のひらに打ちつけて、安定してパンパン音がでるように練習しましょう。

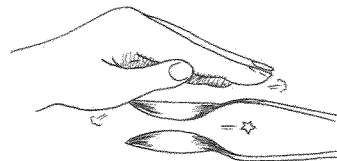


指先でチャ!

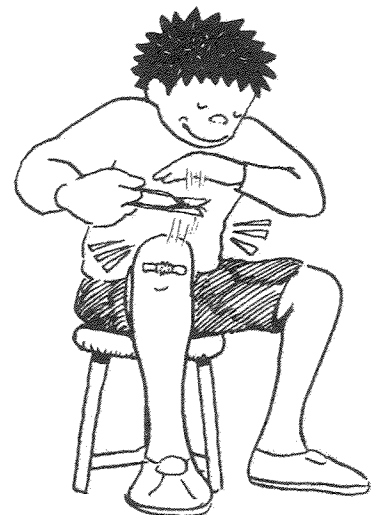
左手の手のひらを丸くしたり、ひらべったくしたりして形を変えたり、指の先で打ったりすることで音色が変わります。



ひらべったく パッ!



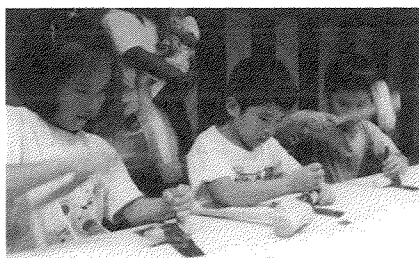
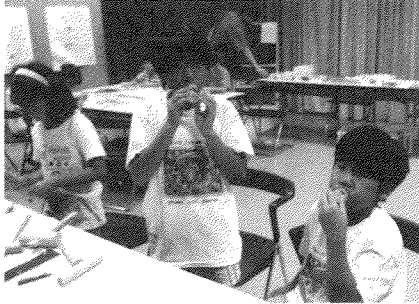
まるめて ポッ!

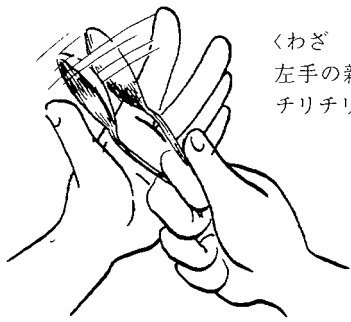


### 【スプーン演奏 わざのかずかず】

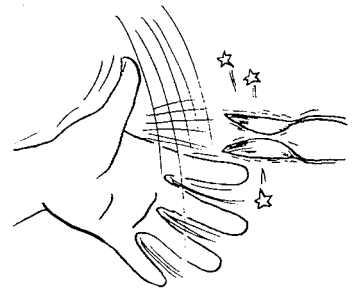
#### 〈わざ その1〉

膝と左手の間を交互に打ちつけて音を出します。速いフレーズが演奏できます。





〈わざ その2〉  
 左手の親指と他の指の間で打つと、  
 チリチリした小さな音がでます。



〈わざ その3〉  
 左手をパーの形でしっかり力を入れて開き、  
 人差し指から小指の間をすべらすと、スネア  
 ドラムのロールのようにタラララララッ  
 といった感じになります。

〈わざ その4〉  
 アゴに打ちつけて、口の大きさを  
 変えると音程が変わります。練習  
 すると「メリーさんの羊」などの  
 曲も演奏できます。



〈わざ その5〉  
 頭や肩でも鳴らせます。見た感じが  
 愉快的なパフォーマンス。

☆わざの1～5を組み合わせた短い曲を紹介します。

4/4  $\frac{4}{4}$  ギザ

トントントテ トントントテ トンテンテトントンチリチリ チ トン チリチリ チ

ロール ひら アタマ

クラットンテン クラットンテン クラットンテトントンテン トテトテトテトンチャツ コッコ コッコ

くち<

トントントテトテトントンテ ポポポポポポポ トンテンテトントンチリチリ チ トン

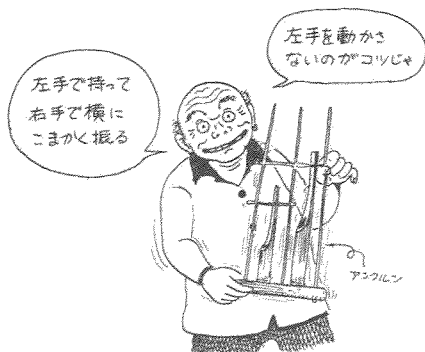
by 孝

## 6. みんなで合奏 「インドネシアのアンクルン」

こどもの城では、さまざまな機会に、子どもたちといっしょにインドネシアの民族楽器「アンクルン」を演奏しています。これは、これまでに紹介してきた打楽器と同じように誰もが簡単に音を出せ、ある程度的人数が揃えばメロディを奏でることができるという、「アンクルン」という楽器の特長に着目したからです。

演奏方法はとても簡単です。左手で持ち、右手で細かく振るとコロコロと気持ちのいい音がします。本当に誰でも簡単に音を出すことができます。1人で1つの楽器を持ち、1つの音を鳴らすのが基本で、1人だけではメロディのある曲を演奏することはできません。しかし、1つの音をもった人がたくさん集まることによって、いろいろな曲を演奏することが可能となります。

曲を演奏する場合、それぞれがタイミングよく「アンクルン」を鳴らさなくてはなりませんから、全員の頭の中にはメロディが流れ、身体ではリズムを感じていることが必要です。みんなが呼吸を合わせ一体となることが、とても大切になってきます。このため、演奏が終わったときには、いっしょに演奏した仲間との一体感や、メロディのある曲を演奏したという達成感を感じることができるのです。

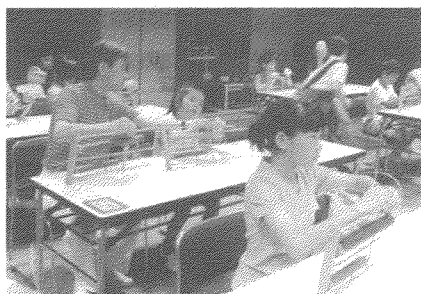


「アンクルン」はインドネシアの伝統的な民族楽器です。素材は竹で、細部まですべてが竹でできています。見た感じとともに、その音は想像以上に素朴で、柔らかい、心地よい音です。インドネシアでは、小さな子どもから18歳くらいまでの青年が集まって、年齢に関係なくアンクルンの合奏を楽しんでいます。



プログラムの手順としては、まず、楽器の紹介をかねて、スタッフによる演奏を行います。そして、いよいよ楽器を配り、子どもたちの体験コーナーです。たいていの場合、ほとんどの子どもたちにとって、見るのも、触るのも初めての楽器です。しかし、簡単に楽器の鳴らし方を練習した後に、指揮者（進行係のスタッフ）に指された子どもだけが、アンクルンを鳴らしていくと、不思議なほどあっという間に素敵な演奏のできあがりです。

演奏には、「誰もがよく知っている」、「伴奏のためのコードが単純である」、「音の順番がわかりやすい」、「リズムが単純である」などの理由から、「きらきら星」をよく使っています。また、演奏の前のあいさつをアンクルンの和音で行うなどの工夫をしています。





## こども活動エリア

### 10F

パソコンルーム

### 5F

屋上遊園／プレイポート  
ふしぎが丘

### 4F

音楽ロビー／A・Bスタジオ  
ビデオライブラリー

### 3F

造形スタジオ／プレイホール

### 1・2F

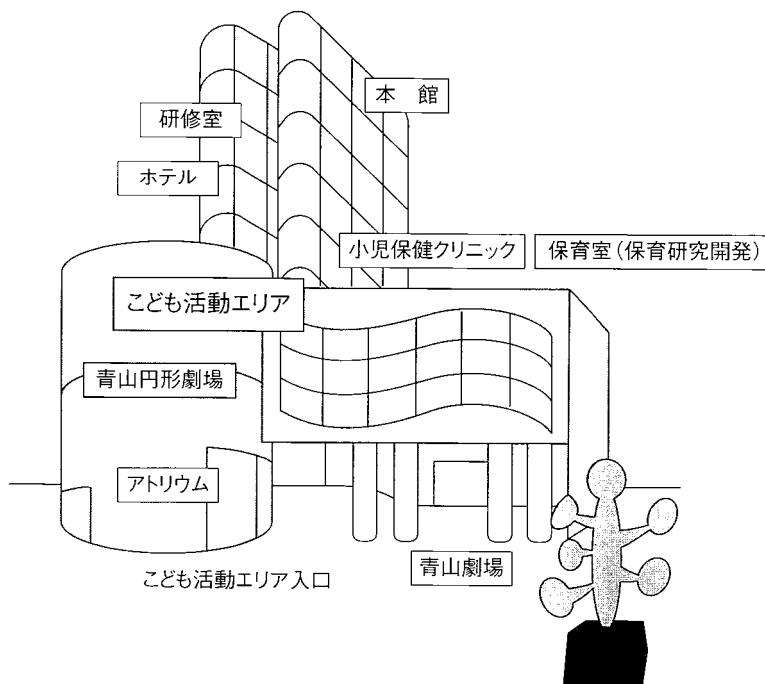
アトリウム・ギャラリー

### B1F

フリーホール

### B2F

体育室／健康開発室／プール



## こどもの城について

こどもの城は1979年の国際児童年を記念して、厚生省が構想した「児童の心身の健全育成」を図る総合児童センターです。厚生省の委託を受けて、財団法人児童育成協会がその運営に当たっています。

次代を担う子どもたちに、その自主性を尊重しつつ、遊びを中心としたさまざまな体験の場を提供することによって、「心身ともに健やかに育成し、その資質の向上を図る」ことを運営の基本としています。そして、日常的な一般活動を基盤としながら、常に先駆的で実験的なプログラムを企画立案し、その独自の情報やプログラムを広く全国に普及させていくことにも重点を置いています。また、国際的な視野にたち、世界各国の子どもたちと文化活動を通じて交流を図ることなど、全国にある児童館の拠点としての役割を果たすことを活動の目的としています。

こどもの城では、「子どもたちの心身の健全な育成」という課題に対し、「こども活動エリア」と総称される体育・プレイ・造形・音楽・AVの5つの部門を設け、子どもたちが楽しみながら、さまざまな体験をすることができるようにそれぞれ専門性を生かしたプログラムを実践しています。

また、その他の関連部門として育児支援のための保育や小児保健、ボランティアや児童厚生員の研修などを担当している企画研修、劇場などの部門を設け、これらの部門が協力し、年間を通じてさまざまな児童の健全育成のための事業を実施しています。そして、10年以上の実践活動の年月のもとで培われた経験や知識、それを基盤とするプログラム作成のノウハウが成熟し、蓄積してきたため、全国の児童館や児童施設と連携・協力して、これを全国に普及していくという当初からの目的を実現できる基盤ができてきました。

## 動くこどもの城とは

前述のように、こどもの城では開館以来、体育・プレイ・造形・音楽・AVなどのいろいろな分野の専門スタッフが協力して、常に新しいプログラムを研究開発してきました。運動体験を通して心身の健全な発達を図るプログラム、遊びを通して対人関係などの社会性を獲得するプログラム、造形活動から色彩感覚などの造形的感覚を養う体験プログラムや制作プログラム、音やリズムを媒介とした音楽体験プログラム、映像の原理を体験的に知り、映像表現をするアニメプログラムなどさまざまです。そして、これらのプログラムを年間100万人を越える来館者に提供し、その実践活動をフィードバックしながら、先駆的な活動のための新しい礎となるような貴重な知見を得てきました。

これらの結果をふまえ、こどもの城では、国立の総合児童センターとして、情報発信機能を充実させていくために、その成果を全国の児童館などに普及していきたいと考えています。また、それをきっかけにして、現在の児童館のあり方や児童館に求められているものについて、児童館で実践活動を行っている児童厚生員などの方々と情報を交換したり、共同研究を進めていきたいと考えています。

このような方針に基づき、「動くこどもの城」事業の構想が生まれました。この事業は、こどもの城で研究・開発・実践してきたプログラムを各地の児童館などで実施するとともに、そのプログラムの背景にある理念や考え方を児童厚生員などの方々に紹介していくものです。そして、平成6年度から国の助成を受けて、実施の運びとなりました。こどもの城では、ナショナルセンターとして、この事業を通じて全国的な規模での児童館活動の活性化のために貢献していきたいと考えています。

